

保健体育科学習指導案

日 時 平成27年6月4日(木) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年選択(男子19名女子19名)
会 場 体育館
授業者 高橋 走

1 単元名 E 球技 ア ゴール型 サッカー

2 単元について

(1) 生徒観

「サッカー」の授業を行うのは今回が初めてである。事前アンケートで、「運動することが好きか」と尋ねたところ、「好き、どちらかといえば好き」と9割近い数の生徒が回答した。サッカーに対する意識調査では、9割の生徒が、「好き、どちらかといえば好き」と回答しており、サッカーに対して好意的な印象をもっている生徒が多い。しかし、否定的な意識を持っている生徒も6名おり、サッカーの経験値は大きく異なる。基本的な技能の習得には、男女であきらかな差があり、経験値の低い生徒への対応として、基本的な技能の習得には経験値の高い生徒を活かした授業展開を工夫したい。空間を利用するために必要な「観て判断する」技能を身に付けている生徒(サッカー部員)は、7名である。また、「サッカーをしているとき、どんなときが楽しいですか」の質問に対して、「みんなでパスを回してシュートを決めること」という答えが多く、シュートの技術やドリブルの技術、ボールコントロールの技術を習得したいと考えている生徒が多い。逆に、「どんなときがつまらないか」という質問に対して「ボールに触れることができないとき、上手な人が一人でプレーしているとき」ととらえる生徒が多いことから、全員でボールにかかわりながら、ゴールを目指す、多くの生徒がボールへの接触回数を増やし、シュートを積極的にうてるような試合を展開できるようにしたい。

(サッカー)

好 き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌 い
45%	42%	13%	0%

(2) 教材観

サッカーは攻守が激しく入れ替わりゴール型のスポーツである。手(腕)以外の部位でボールを扱わなければならないため、他の球技に比べて、技能の習得には時間が必要となる。また、球技の中では、得点の入る場面が生じにくく、パスやドリブルでゴールするまでの複数の関係プレーによる動きと判断力が必要となる。それゆえに自らの課題を克服し、得点を入れたときの喜びは大きく、楽しみの要素となる。また、サッカーはチームスポーツという特性から、個人技能だけでなく、集団技能を高めることがゲームの内容を充実させる大きな要素といえる。実際のゲームではボールをもたない時間帯が圧倒的に長く、その時間帯にどのような動きをすればいいのかを理解、判断し、試合中に必要な集団技能を効果的に発揮できるよう工夫することも楽しさのひとつであると考えられる。さらに、ゴール型の球技において高まる体力としては、主として「巧緻性」、「敏捷性」、「スピード」、「持久力」が上げられるが、ゲームにおいてこれらの個人技能や集団技能を継続して発揮するためには、運動を継続できる体力が基盤となる。このことから、特に全身持久力を高めていくことが必要であると考えられる。

サッカーの授業を通して、お互いによりプレーを認め合うことで、自己受容感の高まりも期待できる。その高まりが、「やってみよう」という意欲につながり、事前アンケートで否定的な回答をした生徒にも学びの多い単元になるよう指導展開していきたい。

(3) 学びの本質に迫る指導について

保健体育科における「学びの本質」とは、「自分やチームの課題解決のために“問い”を持ち続け、これまでに得た知識を実践的に、豊かにスポーツにかかわること」ととらえる。めざす生徒の姿として、以下の4点ができる学習者の育成を目指す。

- ① 学習課題を把握：目指す動きと今自分がした運動の比較による違いを把握する
- ② 学習内容を把握：目指す動きにもっとも近づけるものを見つけ出す
→教師が学習内容を抽出するための「観点」を提示する。
- ③ 学習方法の把握：目指す動きを獲得する方法を考え、把握する。
→教師が獲得しやすい方法、応用性、発展性のある練習例を示す。
- ④ 運動技能習熟：「問い」を持って、「認知」と「運動する時間」を相互に行き来しながら練習に取り組む。
→教師が変化を見取り、それを意識させる。

学びの本質に迫る手立ては以下の通りである。

- (1) 自然な問いを生む学習課題の設定
 - 学習者が画像や映像で目指す動きと今自分がした運動の違いを把握する。【iPadの活用】
 - 教師が「“動きと思考とのかかわりとその表出”の方法」について考え、学習者の「問い」が継続するような学習課題を設定する。【「問い」を生む、学習課題の設定】
- (2) 個人から全体へ伝え合う場の設定
 - 個人の運動のわかり方を説明する場面の設定。【運動学習場面での共有の場】
 - 生徒の発展、応答の場、共感の場をつくる。【振り返りの場】
- (3) 生徒の思考を促す教師のかかわり方
 - 明確な授業構想
 - 生徒の思考を促す発問の工夫
 - ・気づかせる発問 「どこが上手なのかな？上手なところさがしをしよう。誰か気づいた人いますか？」
 - ・生徒の意識を焦点化する発問 「この運動の大切なところはどこかな？」
 - ・対比する 「既習の運動と比較する。～と異なっているところはどこかな？」

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 指導目標

- ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開すること。(技能)
- ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。(態度)
- ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

(2) 評価規準

- ・球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。【運動への関心・意欲・態度】
- ・生涯にわたって球技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。【運動についての思考・判断】
- ・球技の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。【運動の技能】
- ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。【運動についての知識・理解】

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 指導計画 (14時間)

単元の「問い」：「ゴール型球技を楽しむには、サッカーとどのように関わればよいか」

時数	学習内容	活動内容
1	○サッカーは、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開する運動であること。(知識) ○健康・安全に確保すること。(態度)	・サッカーの特性について学習シートに記入する ・サッカー授業のねらいや約束、学習計画、学習シートの説明から理解する。 ・ウォーミングアップとして行うさまざまなドリルを確認する。
2	○チームを構成するメンバーの一人として、今できることを精一杯プレーすること。(態度) ○守備者とボールの間に自分の体を入れてボールキープできること(技能)	・ウォーミングアップドリルを行う。 ・試しのゲームに取り組む。
3	○基本的なボール操作を確認し、ゴール枠内にシュートをコントロールできること。(技能) ○サッカーは、攻守が激しく入れ替わる運動であることから、その動きに関連した体力が高まること(知識)	・ウォーミングアップドリル・ストレッチを行う。 ・資料やVTRを見て、基本的なボール操作練習に取り組む。 ・教師の模範とともに、ボールコントロールの練習に積極的に取り組む。 ・サッカーに関連して高まる体力について学習シートに記入する。
4	○仲間や他のチームの動きのよさに声をかけるなど、互いに助け合って学習することで、お互いの運動意欲が高まること。(態度) ○足の様々な部位を使い、思い通りの場所にパスを送ることができること。(技能)	・チームで声を出しドリルに取り組む。 ・チームでポイントを理解し、取り組む。 ・ドリブルとパスからプレーを選択する。 ・チームで試合を分析する。(iPad撮影)
5	○運動観察の方法について理解する。(知識)	・作戦練習①に取り組む。「ワイド作戦」「ロングパス作戦」「リバース作戦」 ・iPadの映像を取り出して全体で確認する。 ・観察した結果について学習シートに記入する。
6	○作戦などについての話し合いに貢献しようとする事。(態度)	・作戦練習②に取り組む。「オンリーワン作戦」「メッシ作戦」「バルサ作戦」 ・特徴を学習シートにまとめる。 ・チームでいろいろな動きにチャレンジし、声を掛け合いながら楽しく活動する。
7	○ポジションニングを変えることによって、守備者のポジションを動かすことができること。(技能)	・作戦練習③に取り組む。「スペース作戦」「逆サイド作戦」
8	○ボールだけでなく、攻撃者の位置によってポジションニングを変えることができる。(技能) ○人には誰でも学習によって技能が向上する可能性があること。(態度)	・ボールとゴールの間でのディフェンス、ゴール前の空いている場所のカバー仕方について取り組む。
⑨	○提供された作戦や戦術から自己のチームや相手のチームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいること。(思考・判断)	・試合の中で、今まで練習してきた作戦の中で、自分たちの特徴が生かせる作戦を選んで、実践する。 ・仲間のよい動きや発言から考えたことなどについて学習カードに記入する。 ・iPadで撮影し、自チームの状況をとらえる。
10	○仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。(思考・判断)	・試合での課題について、重点的に練習に取り組む。

1 1	○勝敗の結果を認めたり、相手や審判を尊重したりフェアプレイの精神でゲームを行うこと。 (態度)	・リーグ戦① 男子リーグ、女子リーグ、男女混合リーグとさまざまな形態での試合に取り組む。
1 2	○健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。(思考・判断)	・リーグ戦② 「どうすればより楽しくなるか」という問いを持ちながら、チームの状況を把握し、効果的な練習を行い、試合に取り組む。
1 3	○サッカーへのかかわり方を、自分の状況にあわせて見つけること。(思考・判断)	・ミニサッカー大会を全員で運営する。 審判や運営の分担し、自主的に取り組む。
1 4	○ゲームのルール、審判や運営の仕方があることを理解すること(知識)	・ミニサッカー大会を全員で盛り上げる。

(2) 評価計画

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
1				○技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。
2	○健康・安全を確保している。			
3				○サッカーに関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。
4	○自己の責任を果たそうとしている。		○守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすることができる。	
5			○ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。	○運動の観察方法について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。
6	○互いに助け合い教え合おうとしている。			
7			○パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。	
8	○作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。		○ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れることができる。	
9 本時		○提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。		

10	○球技の学習に自主的に取り組もうとしている。	○仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。		
11			○ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。	
12		○健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。		
13		○球技を継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見つけている。		
14	○フェアなプレイを大切にしようとしている。			○試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

5 本時について（9/14時間）

（1）主 題 ゴール型 「サッカー」

（2）指導目標

○提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶことができるようにする。

（運動についての思考・判断）

（3）評価規準

○提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を選んでいる。

【運動についての思考・判断】

（4）指導の構想

「ナイス・ドンマイ・ハイタッチ」の声がけを中心として、明るくみんなで楽しむ雰囲気を保ち、一人ひとりの運動量の多い授業を展開したい。また、教師からも肯定的な言葉をかけ続け、積極的にサッカーにチャレンジする意欲がわき出るようにしたい。その中で、課題解決に向けた「問い」を持ち続け、自分たちの動きが目指す動きとどのように違うのかという視点を持ちながら、兄弟チームでiPadを活用しお互いに観察しながら、「認知」と「運動する時間」を相互に行き来しながら練習に取り組ませたい。

導入では、音楽に合わせた基本技能の習熟をねらったドリルで、サッカーの基本動作を反復し、授業のリズム、勢いをつくる。

展開では、前時の映像や振り返り資料から、本時の課題を考えさせ、その学習内容、学習方法について、全体で共有したい。この時、課題の観点を与え、生徒の考えを引き出すような発問を工夫したい。

その後、今まで学習してきた、作戦を振り返りながら、自分たちの特徴が生きる作戦は、どの作戦なのか選択させたい。また、「相手の逆をとる」という視点にも触れさせ、どのような動きが相手の逆をとることなのか、その中で、自分たちの良さが生きる作戦を実施させたい。その手立てとして、iPadで撮影した映像や、ゲーム観察したデータをもとに、考えさせたい。ゲームの方式を①男子②女子③男女混合という形態で試合を組み、試合に対するモチベーションを高めながら行わせ、経験者が未経験者に技術的な課題やボールをもっていない時の動きなどをアドバイスしながら、自チームの向上に努める姿を期待したい。運動量を確保するなかで、振り返りの視点を明確にし、運動結果とその振り返りが合致するように、学習シートなどを工夫していきたい。

授業の振り返りでは、「どんなことを意識したら自分たちの特徴を生かす作戦がうまくいったか」、「そのために必要なことは何か」という発問で考えさせ、具体的な言葉で表現できるようにさせたい。その際、個人の考えを全体に伝え、気づいたことを大切にしながら、次時への発展につなげていきたい。

（5）本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間 (分)	■「学びの本質」とのかかわり
導入	1 集合, あいさつ, 健康観察をリーダー中心に, 協力して行う。 2 準備運動を行う。 (1) ブラジル体操 (2) ウォーミングアップドリル (基本技能の反復練習) ①熱血バトル (1VS1 : ボールコントロール, 奪う) ②気持ちはひとつに (パス&コントロール) ③シャウトザナンバー (ドリブル : 顔をあげながら) ④川渡りドリブル (相手がいる : 方向転換) ⑤パス!パス!パス! (ハンドパス : 相手から離れる動き) ⑥ゲットザスペース (空いている場所に移動, 見つける)	15	
展開	3 課題把握をする。 前時の振り返り資料から, 観点を与え, 課題を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○自分たちの特徴が生きる「作戦」を選ぼう。 「”どんなことを意識したら自分たちの特徴が生きる作戦がうまくいくか”」という問い</p> </div> 4 共通練習を行う。【2対2】 → (キーワード) 「パスのとき名前を呼ぶ」「目線を上げる」 「ボール受けやすい空間への移動」 (1) 2vs2① (2) よりよい動きを目指して,共有する場面 ・サッカー部のよい動きをみせ,目指す動きを確認する ・狙う動きの確認 : ワンツー (バルセロナ作戦),クロスオーバー (バルセロナ作戦),ワイド&ドリブル (メッシ作戦),裏ゲット (スペース作戦),ショートロング (リバー作戦) (3) 2vs2② 5 今まで学習してきた作戦を生かし,ゲームを行う。 ★既習事項練習内容 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①ワイド作戦 ②ロングパス作戦 ③リバー作戦 ④オンリーワン作戦 ⑤メッシ作戦 (ドリブル) ⑥バルセロナ作戦 (パスを多く) ⑦スペース作戦 ⑧逆サイド作戦</p> </div> (1) ゲーム1 (オールコート) :自分たちの目指す作戦を意識して ① 男子試合 (女子観察,iPad撮影,記録) ② 女子試合 (男子観察,iPad撮影,記録) ③ 混合試合 (女子観察,iPad撮影,記録) <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> (2) ゲーム2 (オールコート) *男女で声をかけ合うよう促す。 *パスをするとき,名前を呼び合う ◎生徒の具体の学びの姿から, 実現状況を判断する。	30	■問いを生む学習課題の設定 ■生徒の意識を焦点化する発問 ■個人から全体へ伝え合う場の設定。 →目指す方向を共有する 【運動学習場面で共有の場】

<p>終 結</p>	<p>6 本時のまとめを行う。 (1) ゲーム分析表, iPadの映像をもとに仲間同士で課題の確認 を行い, 本時の授業記録をまとめる。 (2) 学習の成果や課題などのまとめを発表する。 (3) 教師の評価を聞く。</p> <p>7 整理運動 8 あいさつ</p>	<p>5</p>	<p>■生徒の発展, 応答の場, 共 感の場をつくる。 【振り返りの場】</p>
----------------	---	----------	--